



平成28年3月1日(火)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業第2本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 日高 和重
お問合せ窓口 : 石山 義裕

第122号

【目次】

1. 菱化ロジテック(株) グリーン経営認証 永年表彰受賞
2. 今後の物流政策の基本的な方向性等について(国土交通省)
3. ドローンを活用した輸送実験開始について(国土交通省)
4. AJIOS作業荷役管理ブロック 黒崎支社導入開始
5. 場所紹介 ~ソリューション営業部 営業グループ(栃木県さくら市)の巻~
6. ウェアラブルEXPO 参加レポート
7. ユーザー行動観察力向上セミナー 参加レポート



1. 菱化ロジテック(株) グリーン経営認証 永年表彰受賞

当社子会社の菱化ロジテック(株)九州支店輸送2グループが、交通エコロジー・モビリティ財団からグリーン経営認証永年表彰を受賞しました。

この表彰は、上記財団が認証機関となり、グリーン経営推進マニュアルに基づいて一定のレベル以上の取り組みを行っている事業者に対して、審査の上、認証・登録を行い、その認証期間が10年以上継続して登録となった事業者を表彰するものです。グリーン経営認証を受けている事業所は、全国で5,697事業所(2015年12月現在 トラック事業累計登録数)あり、今回、2015年12月に永年表彰された事業所は、63事業所(トラック事業)でした。

受賞した輸送2グループでは、環境保護やコスト削減のための省燃費運転を徹底するだけでなく交通事故の防止も目的に掲げ、8名前後のメンバーで構成された班ごとに、自主的かつ計画的に活動しています。主な活動内容は、管理表に基づいた車両管理や、乗務する車両の燃費を把握することにより、燃費推移について不具合の原因を調査し、改善するための方策をワイガヤで討議するなどの他に、車内外の洗車やメンテナンスを行う「車両ピカピカ活動」などを継続的に実施しています。管理者の指導のもと、物流実務を担う乗務員自らが問題を解決することで、車両への愛着を高めるとともに、安全で安心な物流への意識を高めることに繋がっています。

今後も、省燃費運転の更なる深化と交通事故ゼロを継続するという強い決意を持って、この活動に取り組んでいきます。



2. 今後の物流政策の基本的な方向性等について(国土交通省)

国土交通省では「今後の物流政策の基本的な方向性等について」の諮問を行い、昨年4月より審議が行われ、昨年末にその答申が公表されました。

答申では、物流の直面する課題として「少子高齢化・労働力不足」、「貨物の小口化・多頻度化と顧客ニーズの多様化」「国際競争の激化」「災害リスクの高まり」などが挙げられています。そして、将来の物流が果たすべき役割として、①持続的な経済成長 と ②安全・安心で豊かな国民生活を支えていく役割 が指摘され、そのための取り組みが以下の通り示されました。(一部抜粋)

物流生産性革命の実現	未来へ続く魅力的な物流への進化
潜在的輸送力等の発揮	多様な人材が活躍できる環境の整備等
<ul style="list-style-type: none"> ◇モーダルシフトの更なる推進 ◇トラック輸送の更なる効率化 ◇物流ネットワークの拠点高度化 等 	<ul style="list-style-type: none"> ◇就業環境の改善と定着率の向上 ◇業界イメージ・物流そのもののイメージの改善 ◇人材の確保・育成
物流フロンティアへの挑戦	社会への貢献
<ul style="list-style-type: none"> ◇都市内物流マネジメント ◇消費者との対話を通じたライフスタイルの変革 ◇海外展開をはじめとする新たな市場の開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ◇地球環境対策への貢献 ◇災害対応力の強化 ◇活力ある地域づくりへの貢献



上記には以前から物流会社で取り組まれてきたテーマも多く含まれていますが、今後は物流会社単独の取り組みだけでなく、“発荷主と着荷主”といった荷主企業間の協力や、“宅配便の再配達削減”など消費者との対話を通じた枠組み作りが一層期待されており、当社においても同様な枠組み作りの取り組みを行って参ります。

3. ドローンを活用した輸送実験開始について(国土交通省)

昨年、大きく注目され2015年の流行語大賞に「ドローン」がトップテン入りをしたのも、皆さんの記憶に新しいと思います。無人航空機「ドローン」は、昨年12月に施行された改正航空法により、夜間や人口密集地の上空での飛行は原則禁止とされ、飛ばすには国の許可・承認が必要になりました。

しかしながら、今後、世界的に市場が急拡大すると期待されている新たなビジネス領域であり、欧米の動きからみても、物流業界は特に市場スケールが見込まれる産業とされています。

国土交通省は、物流におけるドローンの活用に向けて、2月をメドに貨物輸送実験を行う事を表明しました。過疎地や離島、都市部などでの貨物輸送や災害発生時での活用が見込まれていますが、全国的な宅配事業での活用については課題があるため、まずは地域や貨物を限定した形で活用方法を検討していくようです。法制度上の課題が少なくなく、普及推進のハードルは高いとされており、輸送に適した貨物の条件、梱包方法、機体の仕様・性能、国内外での物流への活用事例についても検討・整備するとしています。輸送実験は、徳島県那賀町で行い、落下等のトラブルにおける課題など、実験を通して見えてくる課題の整理を行っていくようです。

昨今、物流業界は環境規制の変化、ドライバーの高齢化、人材不足の深刻化等、物流を取り巻く外部環境が大きく変化している中、ドローン輸送の実用化が物流課題の解消の一助となるよう大きな期待を寄せたいです。



4. AJIOS作業荷役管理ブロック 黒崎支社導入開始

112号でもご紹介いたしました。現在当社では、業務系基幹システムの更新に着手しております。一昨年4月からプロジェクト体制を立ち上げて本格的な取り組みを開始し、システム名も社内公募の結果、「AJIOS(All Joint In One System/全てを、みんなを繋ぐシステム・・・の頭文字から命名)」と決まりました。

システム規模の関係から、機能(システムブロック)別に順次開発・稼働させていく予定としており、まずこの4月から「作業荷役管理ブロック」というシステムブロックを立ち上げるべく、現在急ピッチでシステム開発を進めているところです。

この「作業荷役管理ブロック」は、主に荷主様の工場内や、自社倉庫内の各種作業、またバース(埠頭)における沿岸荷役作業に使用することを想定したシステムブロックです。

主要機能は、システム間連携や入力により取り込んだ荷主様からのオーダー情報を基に、当社としての事細かな作業指示書を作成したり、その作業指示に対する実績をAJIOSに入力することにより、全社で標準化された業務管理を行えるように作業日報を作成するというものです。

また、誤出荷などの作業ミスを防止するため、画像認識技術を組み込んだハンディターミナルも導入する予定としています。

AJIOS構築における大きな狙いのひとつは、実績解析の基となるデータをよりスムーズに収集し、指標を用いた定量的な作業実績管理を強化することにより、今まで以上に業務の効率化及び荷主様への様々な物流改善のご提案ができる基盤を作ることです。

【AJIOSロゴマーク】



当社の黒崎支社を皮切りに、来年度中に主な工場地区へ展開する予定としておりますが、一日も早いシステム導入と安定稼働を目指し、プロジェクトメンバー一丸となって取り組んでまいります。

5. 場所紹介 ～ソリューション営業部 営業グループ(栃木県さくら市)の巻～

当社ソリューション営業部のA社駐在所は、2014年から業務をスタートし、現在5名でA社製品の場内・倉庫・輸送管理に日々奮闘しています。

駐在所のある栃木県さくら市は、栃木県の中部に位置し、2005年3月28日に塩谷郡氏家町・喜連川町が新設合併して誕生しました。勝山城址、鬼怒川堤防の桜堤、早乙女の桜並木、お丸山公園など市内に桜の名所が多く、地域住民にとって桜は長年親しまれてきた花であり、桜の花のように美しい市になってほしいという願いが込められています。

さくら市には、島根県の斐乃上温泉、佐賀県の嬉野温泉と共に『日本三大美肌の湯』とされている喜連川温泉が市内に複数あり、道の駅『きつれがわ』では温泉風呂・足湯があり、車の運転の休憩所としてほっこりすることができます。そして名物の『温泉パン』が有名で、創業73年目の伝統のあるどっしり、ふっくらとした素朴な味わいのパンです。発送も可能ですので、一度ご賞味あれ！

また、某朝のドラマで話題となったウキスキーメーカーの工場があり、冷涼な空気と水の美しさから保存場所に適しており、主にグレーンウイスキーの熟成やブレンデッドウイスキーの再貯蔵(マリッジ)など最大規模の樽貯蔵所となっています(残念ながら見学することは出来ませんが・・・)。

そんなさくら市ですが、近隣には世界遺産のある日光や餃子のおいしい宇都宮、高原グルメの那須など、見どころ・味どころ・癒しどころ満載ですので、是非お近くにお寄りの際はお立ち寄りください。



6. ウェアラブルEXPO 参加レポート

2016年1月13日～15日までの3日間、東京国際展示場(ビックサイト)で開催された「第2回 ウェアラブルEXPO」に参加してきました。この展示会は、業務改善のためのウェアラブルソリューションや最新ウェアラブルデバイス開発のための部品・材料などウェアラブルに関する総合展示会で、実際にウェアラブル端末が体験できるブースもあり、3日間で約83,000名の来場者数があり大盛況でした。

展示会の中で多く見られたものとして、メガネ型のスマートグラスがありました。物流関係では、製品をピッキングする際、作業指示がディスプレイに映し出され、作業効率アップに繋がる機能をもったものがありました。

中でも印象に残ったのは、乗務員の眠気通知に関するものです。乗務員が装着する専用のセンサーが、心拍周期より眠気を事前に検知し、アラーム通知をして居眠り運転を防止します。また、当該センサーの装着により、乗務員の健康管理面にも役立てられるとのことでした。

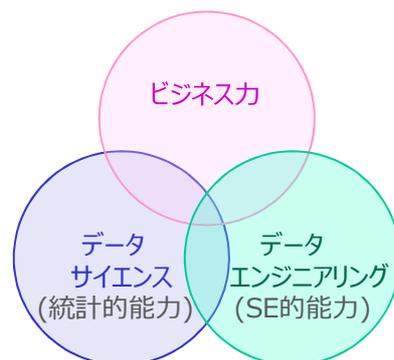
ウェアラブル関連の技術進歩は著しく、私たちも必要に応じてこうした新しいツールを導入していくことで、お客様にご提案するソリューションの質やスピードの更なる向上に繋げられるよう、最新技術の動向や情報の収集に気を配っていきたくて思いました。

7. ユーザー行動観察力向上セミナー 参加レポート

1月22日、企業の開発・設計部門担当者を対象としたIE(Industrial Engineering)とIoT(Internet of Things)に関する産業能率大学総合研究所主催の首記セミナーに参加しました。本セミナーは物流業を直接のターゲットとしたものではありませんでしたが、製造 データサイエンティストに求められるスキル 業の開発部門目線での講演内容は、物流部門の効率化検討でも参考になる内容でした。

IoTの活用にはビッグデータ解析が不可欠であり、そのためにはデータサイエンティストの育成が急務と言われています。IEにおける行動観察も同様で、GPSや加速度センサー等、各種高性能センサー類の汎用化を受けたIoTの進展により、従来と比べて格段に早く且つ多様なデータが入手可能になりつつあります。

物流現場においても、これらを活用する事で従来は分からなかったより詳細な物流設備やドライバー・作業者の動態把握が可能になり、更なる効率化の進展に寄与する事が期待されます。



[講演資料より抜粋]

*データサイエンティスト:データを活用して事業の利益に貢献する人材

編集後記

ソリューション営業部 岩下

初めまして。1月にソリューション営業部へ異動となりました岩下と申します。

当号の「ドローンを活用した輸送実験」「ウェアラブルEXPO参加レポート」等の記事にありますように、加速度的に科学技術が進歩していく世の中ですが、一方で生産者から消費者まで生産物を移動させる「物流の現場」においても他の業界と同様に、経験に基づいたノウハウや技術、人間自身の労力、確認等により業務をおこなっている事が、まだまだ残っているように思います。

物流業務の改善において、このような技術も取り入れ、付加価値の高い物流業務をご提案できるよう努力していく所存です。宜しくお申し上げます。

(そう、改善提案もスマートグラスでディスプレイされ情報がインプットされる時代も・・・

やってくる? 筈です)